

すわばら 諏訪原 2 遺跡

遺跡番号 301-070
調査回数 第1次
所在地 山形県東村山郡山辺町大字山辺字諏訪原
北緯・東経 37度17分52秒・140度15分33秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部道路課
起回事業 交通安全道路事業主要地方道山形朝日線(山辺工区)
調査面積 1,100㎡
受託期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日
現地調査 令和6年5月20日～9月13日
調査担当者 齋藤健(現場責任者)・齋藤主税
調査協力 山辺町教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 中世
遺構 溝・土坑・柱穴
遺物 縄文土器・須恵器・陶磁器 (文化財認定箱数:10箱)



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

諏訪原2遺跡は、JR左沢線羽前山辺駅の西方約1kmに所在する遺跡で、主要地方道山形朝日線の歩道設置による拡幅工事に伴う分布調査で発見された新規の遺跡である。本遺跡は山辺町中心部の西側に広がる丘陵地から続く段丘上の、水はけがよい緩やかな傾斜地に位置している。近代以降は桑畑として利用されていたが、ここ数十年はリンゴを中心とする果樹園となっている。当遺跡の北西約0.3kmには平安時代を中心とした諏訪原遺跡、

東側約0.7kmには中世城館である山辺城跡がある。また、南西約1.3kmには縄文時代中期・後期の根拠的場遺跡が、南東約1.5kmには奈良・平安時代の条理遺跡である山辺条理遺跡がある。

今回の調査では、溝跡や柱穴や素掘りの井戸跡などの遺構が検出された。溝跡は、概ねほぼ南北方向を主軸とし、現在の地割ではなく昭和40年代に実施された区画整理以前の地割に沿ったものであると見られる。出土遺物は、近世の陶磁器が多く、少量ではあるが、平安時代の須恵器の破片も出土した。調査区最北端の8区では幅4m、深さ2mほどのほぼ直角に屈曲した大型溝跡が検出されている。V字状の断面やほぼ直角に屈曲している様子から、河川跡というより人工的に掘削された溝跡と考えられる。出土遺物は自然木と縄文土器のみである。

まとめ

今回の調査で検出された溝跡の多くは近世から近代にかけての土地の区割りや道路の側溝などの溝ではないかと推測される。また、同時期のものと見られる素掘りの井戸跡も検出された。

8区の大型溝跡については、出土遺物は縄文土器のみ

であるが、溝の断面や規模から中世以降のもので、縄文土器は後世の流入遺物と考えている。現在、出土した自

然木の年代測定を実施しており、それらを基に大型溝跡の年代を確定したい。



調査区概要図



写真1 1区柱穴完掘状況 (北から)



写真2 3区溝跡検出状況 (南から)



写真3 5区井戸跡完掘状況 (西から)



写真4 8区大型溝跡検出状況 (南から)



写真5 8区大型溝跡完掘状況 (北から)



写真6 8区大型溝跡完掘状況 (西から)